

「親なき後のこどもの生活環境」学習会報告

令和8年1月20日（火）四條畷市障がい者基幹相談支援センターさつき主任・相談支援専門員の都築奈緒様、本校卒業生保護者の方2名を講師にお招きし「親なき後のこどもの生活環境」についてお話を伺いました。

今回の勉強会は「親なき後」の生活を考えるだけでなく親が元気な「今」の生活環境を整えていくきっかけにもなる時間でした。（出席者：会場・オンライン参加含め39名）

・卒業生保護者の方のお話①

はじめに本校卒業生保護者の方からお話を伺いました。

お子様は現在23歳の男性で、療育手帳Aをお持ちの方です。

高等部の頃の辛かったことや卒業後の進路、卒業から数年経った今の生活、今後のイメージなどを教えていただきました。

在学中は将来を考える余裕がなかったこと、卒業後は生活介護事業所に通い公園で花を植える作業をしていたことなどのお話がありました。

途中で施設の体制が変わったことをきっかけに「行かない」と言うようになり、思い切って事業所を変えた経験も紹介されました。

また、自立に向けて一人で風呂に入れるよう練習するサービスを利用していることや移動支援を受けながら生活していることなど少しずつできることを増やしている様子も伺いました。

保護者の方からは「一人で抱え込まないこと」「子どもの行動の裏にある気持ちを考えること」「犯人探しをしないこと」「学生のうちに親子関係を大事にすること」「自立にはそれぞれのタイミングがあること」

など同じ立場の保護者へのメッセージもいただきました。

・卒業生保護者の方のお話②

続いて、もう一人の卒業生保護者の方からもお話を伺いました。

お子様は現在 28 歳の女性で、療育手帳 A をお持ちの方です。

中高生の頃に悩んだことや、当時利用していたサービスについて、また今振り返って「どの支援が本人にとって良かったか」など、経験をもとに教えてくださいました。

中高生の時期には、放課後等デイサービス・日中一時支援・移動支援などを利用されていたそうです。

その後、自立訓練に通い就労継続支援へと進まれた経過も伺いました。

グループホームについては「見学だけのつもりだったが、行ってみると新しくきれいで、本人も前向きでスムーズに決まった」というお話が印象的でした。

心配事もある一方で、「たくさんの応援者がいること」「これまでの経験があるからチャレンジできること」が安心につながっていると話されていました。

・都築様のお話

都築様からは「親なき後」に備えるために大切なことを教えていただきました。

まず、困ったときに相談できるように早い段階から地域や支援機関とつながっておくことが大事だというお話がありました。

生活を考える上で大切にしてほしいこととして、「5つの要素」が紹介されました。

生活（くらし）・活動（就労を含む）・健康・余暇・相談

この5つを整えていくことが、本人の安心につながるということでした。

また、「親が思う一番が、本人にとっての一番とは限らない」という言葉が印象に残りました。本人の気持ちや支援者の視点も聞きながら、一緒に成長を支えていくことが大切だと学びました。

親が元気なうちに本人の好きなことやどんな生活をしてほしいかを周りに伝えておくことも将来の準備になるというお話でした。

今回の勉強会を通して「親なき後」だけでなく親ある今から支援につながり、本人らしい生活を整えていくことの大切さを学びました。

最後になりましたが、都築様、ご協力いただいた卒業生の保護者の皆様、先生方、参加いただいた皆様にお礼申し上げます。

PTA 進路教養部